

第3回

# ヨコハマ

# F D フォーラム

「学び」の質  
向上に向けて

## 学生調査の現状と課題

— 学生の声を基に調査結果の活用について考える —

日時

2017年

12月10日 日 13:30-16:45

※13:00受付開始

(17:00~18:30 情報交換会 (会費制))

教員・職員・学生  
の3者で考えあう

会場

**横浜国立大学 教育文化ホール**

対象

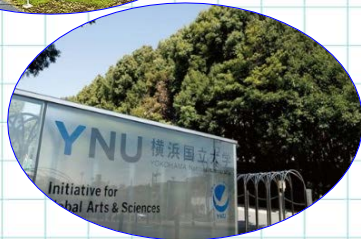
大学教職員・大学生、その他  
大学教育に関心のある方

【共同主催】 **YNU** Initiative for Global Arts & Sciences 横浜国立大学

**KU** 神奈川大学

 関東学院大学

 横浜市立大学  
YOKOHAMA CITY UNIVERSITY



横浜4大学は、2017年2月にFD(教育改善)活動  
について連携する包括協定を締結しました。

ご予約  
お問い合わせ

参加お申し込みはこちらから

【お申し込みはこちら↓からもどうぞ】

- 参加申込締切【11月27日(月)】※お早目にお申込みください
- 参加費無料 (情報交換会のみ会費制)
- お問い合わせ先：横浜国立大学 高大接続・全学教育推進センター

E-mail→ [yec.center@ynu.ac.jp](mailto:yec.center@ynu.ac.jp) 電話番号→045-339-3141



### 全体プログラム

13:00~13:30	参加者受付
13:30~13:40	<p>開会挨拶 横浜国立大学 副学長(教育担当) 高木 まさき</p> <p>フォーラムの流れおよび趣旨説明 横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター センター長 上ノ山 周</p> <p>近年、大学において、学習行動や学生生活、就職活動などに関する様々な学生調査が実施されるようになってきている。代表的なものは、講義や実験・実習などで実施されている授業アンケートである。また最近では、大学の活動全般を調査するInstitutional Research(IR)活動の一つとして、授業以外の様々な項目について学生の調査が実施されるようになってきている。これらの学生調査は、その結果が調査対象の活動内容に反映され、大学での教育活動が、学生と大学及び社会にとってより良い方向に改善されることが重要である。しかしながら調査結果の活用という点では、これから具体的な検討が開始される場合や、模索が続いている場合も多い。また調査対象である学生が、これらの調査に対して何を感じ考えているか声を聴き、活動に反映する機会もごく限られている。今年度のFDフォーラムでは、4大学で実施されている学生調査の現状と課題を共有し、更に調査結果の活用について学生の意見を基にパネル討論を行うことで、これからの学生調査の在り方や活用方法について考える機会としたい。</p>
13:40~15:00	<p><b>【第Ⅰ部】活動報告「学生調査の現状と課題」</b></p> <p>神奈川大学 教育支援センター所長 山本 博史          関東学院大学 高等教育研究・開発センター 杉原 亨          横浜国立大学 高大接続・全学教育推進センター 市村 光之/安野 舞子          横浜市立大学 FD・SD推進委員会副委員長 石川 裕一</p>
15:00~15:10	休憩
15:10~16:40	<p><b>【第Ⅱ部】教・職・学による会場参加型パネルディスカッション</b>  <b>「学生の声を基に調査結果の活用について考える」</b></p> <p>モデレーター：松本 真哉（横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター副センター長）          パネリスト：横浜4大学(文系・理系)学生 2名×4大学=8名の学生が登壇します</p> <p>内容共有等まとめ</p>
16:40~16:45	<p>閉会挨拶 横浜市立大学 副学長 重田 諭吉</p>
17:00~18:30	<p>情報交換会 (教育文化ホール中会議室) 参加費：学生 1,000円, 教職員他 3,000円          ※参加者受付にて事前にお支払いをお願いします。</p>

#### 第3回ヨコハマFDフォーラム企画検討ワーキンググループ

委員長 松本 真哉 (横浜国立大学 高大接続・全学教育推進センター副センター長)

委員 安野 舞子・宮島 由紀・池田 苑 (横浜国立大学) 山本 博史・旭 馨・升田 亘 (神奈川大学)

杉原 亨・奈良 堂史 (関東学院大学) 影山 摩子弥・石川 裕一・菊地 芳明 (横浜市立大学)

